

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Aユニット		
所在地	旭川市永山2条21丁目2-21		
自己評価作成日	平成29年6月16日	評価結果市町村受理日	平成29年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの方針「ゆつくり・いっしょに・たのしく」を意識しながら、利用者様とふれあうように努めている。日課にとらわれず入居者それぞれの生活ペースにあった暮らしが出来るよう支援している。日々の生活を楽しく過ごせる様にレクや外出にも取り組んでいる。役割を分担して職員と一緒にお手伝いしてもらい笑顔を引き出される様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いの閑静な住宅街の中に木造モルタル平屋造り(耐火建築)1部2階建て2ユニット(定員:18名)の開設14年を迎えたグループホームです。一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、花火大会やクリスマス会の開催、カラオケやちぎり絵製作等のレクリエーションの充実で楽しみごとへの支援している。また、一人ひとりの力やその日の希望に沿って、近隣散歩やお花見に出かけたり、冬祭りや紅葉見物、当麻の道の駅へのドライブや買い物など戸外に出かけられるよう支援をしている。地域との連携の取り組みでは、大学の看護学科の学生の受け入れで交流の機会を設けたり、地域の子どもたちも参加する花火大会の開催など地元の人々の協力を得ながら、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所の理念に基づき日常的に、意識して業務に取り組んでいる。又、月一回の朝礼で理念を意識づける為読み上げる様にしている。	事業所独自の理念をつくり、毎月朝礼で唱和したり、日常業務を通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り見学や夏には、町内会、近隣の方たちと合同で花火大会も毎年開催している。	大学の看護学科の学生の受け入れで交流の機会を設けたり、地域の子どもたちも参加する花火大会の開催など地元の人々の協力を得ながら、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに地域の方、町内会長、民生委員に参加してもらっており、認知症状への対応、介護支援の方法の情報提供、研修への参加を超えかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催し、その場で具体的に、災害対策、感染症対策、その都度取り組んでいることを報告し、意見を頂きサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の利用状況や取り組み、災害対策や感染症対策などの具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、地域包括支援センター等の主催のする研修に参加し情報共有できるよう取り組んでいる。地域包括支援センターから市町村の情報ももらえるよう連携している。	市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じた連絡や報告などで協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい理解・知識を持てるよう定期的に内部研修や外部研修にも参加するよう努めている。不適切ケア防止も定期的に具体例を取り上げ定例会議で話し合う機会を設けている。	定期的に内部・外部の研修会開催や参加、事例研究等を通じて話し合う機会を設け、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が率先して高齢者虐待防止について外部研修への参加、内部研修も行い、その意味を理解してもらえようとしている。日常的にも注意しながら防止するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が率先して外部研修に参加しており、内容を内部研修やミーティング等で伝えている。必要性があれば制度を活用出来るよう把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、解約の際、本人、御家族が不安や疑問が残らない様十分に納得できるよう、契約書、重要事項説明書等の説明をしており、同意頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に苦情受けを備えておりいつでも意見や苦情を述べられるようにしている。意見、苦情があった場合は速やかに対応し納得頂けるように努めており今後に反映する様にもしている	苦情等の第三者機関への申し出先を見やすい場所に明示している。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付箱を設置して、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を言いやすい環境を作っている。毎月の定例会議で意見や提案を自由に述べられる時間を作って、内容を全員で話し合い反映出来る様にしている。	毎月の定例会議や個人面談の実施で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日頃の菌部状況を査定しており、その内容を代表者に報告しそれに基づき福祉部長が個々と面談して希望を聞き、職場環境改善につなげる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽のため、研修を受けれるよう機会をつくり参加するように努めている。研修後はその内容を介護の時に発表し全職員で共用できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	GHの研修には出来るだけ参加し、それ以外の勉強会、研修にも希望があれば参加出来る様に努めている。包括支援センターの研修にも定期的に参加しセンター長と連携をとり情報共有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し要望、不安を聞き取りする様にしている。その後の入居者の生活状況を観察しつつ寄り添うような関わりを行い信頼と安心感を常に持って頂けるよう努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望、心配な事を面談時に聞き取りし把握する。今後のサービスの方向性を家族と確認する。時間を掛けて生活に馴染んでいける様に配慮し、本人の希望や家族の要望を優先し満足して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと受け止め、ホーム内での生活に必要なサービスを見極め提供する。状況により口腔ケアの実施指導、外部サービス（セラピードッグ療法等）を取り入れるように対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒におしぼり作り、エプロンたたみ、洗濯物たたみ等を行うようにしている。時には一緒に外に出て散歩したり花壇へ水やりをして頂くよう声掛けを行い、スタッフとの関係を築けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の生活状況、受診後の結果、体重、食事摂取量等を家族に報告し細かく情報を共有している。面会時は自室に案内しておりゆっくり過ごして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や友人が来訪され入居者と話しされる場面あり、入居者も楽しそうに会話されている。時には外泊もされ馴染みある思い出の場所へ行って頂き人や場所との関係が途切れないよう支援している。	地域のお祭り等の行事参加や買い物、友人・知人の来訪支援等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の性格や認知症状把握し隣合う方の相性やコミュニケーションの有無を考慮した配置で配属している。トラブルが起きないようにスタッフが仲に入り関係を取り持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居された方にも定期的に連絡、面会等をさせて頂き状態をお聞きしている。家族からの今後の方向性について相談等ある時は全面的に協力、出来る限り助言させて頂いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしている。家族からもケアプランに反映出来る様に意見を取り入れている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や家族の意向等を定例会議やユニット毎の会議等で話し合い、本人本位に検討している。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用等で、出来るだけ生活歴を詳しく聞き出すようにしており、それを可能な限り反映出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、スタッフからの報告、個人のケース記録等を参考に毎日の入居者の生活状況を確認、把握し毎日の引き継ぎで状態の変化があればスタッフ間で情報の共有化を図り日頃の個別ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らして頂く為の課題とケアについて本人、家族、スタッフと話し合いケアプラン変更時に本人、家族の要望を再確認しモニタリングに活用、担当スタッフからの情報をサービス担当者会議で収集し新たなケアプランの作成に活かしている。	本人・家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、ユニット会議やモニタリング等で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、ケアプランに沿った介護記録の記入について検討課題として取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、記録にて情報の共有しており、早番、日勤が記録を書く際は入居者個人のケアプランに沿った内容を記載させている。又、夜勤の記録についてはケース記録を夜間帆船書とし記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月スタッフ会議を行い内部研修にてケアについて再確認、技術指導を実施、外部研修にも可能な限り参加し指導を受けられるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の子供達と合で開催している行事や外出行事等に参加して頂きで地域の方とふれあえるよう考慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望している医療機関、又、看護師による週1回のラウンドの実施、医師の往診と通院先への同行で適切な医療支援が行えるよう支援している。尚、受診については家族とも相談しつつ、本人の状態次第で判断している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用、通院への同行や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に連携を図っている医療機関から看護師を派遣して頂き入居者のバイタルや体調の観察と確認をし身体状況の把握をしている。又、24時間電話での入居者の体調の変化に対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者様は二か月の間部屋を空けてお待ちしている。その館は定期的な医療との連携により入居者様の状態の把握に努め早期退院後の受け入れ態勢をとれるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重篤、終末期に本人と家族の意向に出来る限り添えるよう医療機関と連携を図り緊急時の対応や指示等を検討、準備している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置、全てのスタッフが対応できるように周知させている。地域消防署が主催している救急救命の講習に管理者、スタッフが出来る限り参加し訓練に励んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練の実施をしている。防災訓練は行ってはいないが地域消防署から講師の方を迎え、防災についてスタッフが学べる機会を設けている。	消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。また、救急救命の講習会にも参加している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない様 常日頃から留意しており、内部研修等でも話し合うようにしている。又、個人が特定できるものについては必ずシュレッターで処理する様になっている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修会や事例研究等で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で本人の希望や自己決定を尊重するようにしている。今何をしたいか相談する場面を作る機会を設ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	今までの生活リズムを尊重し、自分らしい暮らし方ができるよう心掛けている。天気の良い日に散歩や外出の希望があれば可能な限り外へ出れる様支援もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる方には自分で好きな格好をして頂いている。又選べない方は家族から好みを聞き訪問者にも恥ずかしくない服装で過せるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握し食べられない食材には代替品を用意している。又歯科医、口腔ケア専門士の協力を得て出来るだけ普通食を食べられる様に歯の治療や嚥下訓練をしています。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け等を職員と一緒に行うよう努めている。また、専門家の協力を得て口腔ケアに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取状況を表にして把握して必要量を確保している。又体重測定や健康診断等を参考にして主治医と相談しながら適性体重維持の為に食事量を制限している方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケア状態が把握出来る表を作成、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っています。又歯科医師、口腔ケア専門士が毎週来園して歯科治療、口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは最終手段と考え、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決定する様にしています。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事材料の工夫で自然排便を心がけています。又各個人別の運動表により身体を動かす機会をもてる様にしています。便秘症の方は主治医と相談しその方にあつた下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっていますが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっています。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて個々に合った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。就寝時間も本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更等、受診結果はその都度、全職員に申し送りやケース記録の活用により周知出来る体制を組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や習慣を把握し、その方に合った役割をして頂いて、終わったら必ず感謝の気持ちを伝え言葉にしています。職員と共に楽しめる様に機会を設けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期には毎日の様に散歩の機会を設けているが本人希望で遠方の外出は担当職員と外出出来る様に計画を立てから外出している。又自宅へ帰りたい時は家族の許可を得てから送迎をする事も支援している。	一人ひとりの力やその日の希望に沿って、近隣散歩やお花見に出かけたり、冬祭りや紅葉見物、当麻の道の駅へのドライブや買い物など戸外に出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小額の金銭を持ち歩き管理している方が数名いますが、買い物時などで自分で支払い出来る様見守りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封して頂きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームには季節に合ったディスプレイを飾り、心地よい音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは光が差し込み明るく開放感いっぱいの中で穏やかに過ごされています。	共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示など生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディールームにはソファ、食堂には食卓テーブルが有り、夏期には中庭に椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんで頂ける様配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になる様に心掛けています。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が利用者様の身体状況、生活歴を把握し、混乱しない様に気を配り、安心して頂ける様な声掛けをしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Bユニット		
所在地	旭川市永山2条21丁目2-21		
自己評価作成日	平成29年6月16日	評価結果市町村受理日	平成29年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に寄り添い、ふれあえる時間を少しでも多くも置けるよう努め、日々の暮らしの中で生きがいを持ち自分らしくいきいきとした充実感ある生活が送れるようにサポートする事を心掛け、入居者様をしたい事をいつでも出来るように準備しており支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所の理念に基づき日常的に、意識して業務に取り組んでいる。又、月一回の朝礼で理念を意識づける為読み上げる様にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り見学や夏には、町内会、近隣の方たちと合同で花火大会も毎年開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに地域の方、町内会長、民生委員に参加してもらっており、認知症状への対応、介護支援の方法の情報提供、研修への参加を超えかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催し、その場で具体的に、災害対策、感染症対策、その都度取り組んでいることを報告し、意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、地域包括支援センター等の主催のする研修に参加し情報共有できるよう取り組んでいる。地域包括支援センターから市町村の情報ももらえるよう連携している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい理解・知識を持てるよう定期的に内部研修や外部研修にも参加するよう努めている。不適切ケア防止も定期的に具体例を取り上げ定例会議で話し合う機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が率先して高齢者虐待防止について外部研修への参加、内部研修も行き、その意味を理解してもらえるようにしている。日常的にも注意しながら防止するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が率先して外部研修に参加しており、内容を内部研修やミーティング等で伝えている。必要性があれば制度を活用出来るよう把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、解約の際、本人、御家族が不安や疑問が残らない様十分に納得できるよう、契約書、重要事項説明書等の説明をしており、同意頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に苦情受けを備えておりいつでも意見や苦情を述べられるようにしている。意見、苦情があった場合は速やかに対応し納得頂けるように努めており今後反映する様にもしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を言いやすい環境を作っている。毎月の定例会議で意見や提案を自由に述べられる時間を作って、内容を全員で話し合い反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日頃の菌部状況を査定しており、その内容を代表者に報告しそれに基づき福祉部長が個々と面談して希望を聞き、職場環境改善につなげる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽のため、研修を受けられるよう機会をつくり参加するように努めている。研修後はその内容を介護の時に発表し全職員で共用できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	GHの研修には出来るだけ参加し、それ以外の勉強会、研修にも希望があれば参加出来る様に努めている。包括支援センターの研修にも定期的に参加しセンター長と連携をとり情報共有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し要望、不安を聞き取りする様にしている。その後の入居者の生活状況を観察しつつ寄り添うような関わりを行い信頼と安心感を常に持って頂けるよう努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望、心配な事を面談時に聞き取りし把握する。今後のサービスの方向性を家族と確認する。時間を掛けて生活に馴染んでいける様に配慮し、本人の希望や家族の要望を優先し満足して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと受け止め、ホーム内での生活に必要なサービスを見極め提供する。状況により口腔ケアの実施指導、外部サービス（セラピードッグ療法等）を取り入れるように対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒におしぼり作り、エプロンたたみ、洗濯物たたみ等を行うようにしている。時には一緒に外に出て散歩したり花壇へ水やりをして頂くよう声掛けを行い、スタッフとの関係を築けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の生活状況、受診後の結果、体重、食事摂取量等を家族に報告し細かく情報を共有している。面会時は自室に案内しておりゆっくり過ごして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や友人が来訪され入居者と話しされる場面あり、入居者も楽しそうに会話されている。時には外泊もされ馴染みある思い出の場所へ行って頂き人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の性格や認知症状把握し隣合う方の相性やコミュニケーションの有無を考慮した配置で配属している。トラブルが起きないようにスタッフが仲に入り関係を取り持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居された方にも定期的に連絡、面会等をさせて頂き状態をお聞きしている。家族からの今後の方向性について相談等ある時は全面的に協力、出来る限り助言させて頂いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしている。家族からもケアプランに反映出来る様に意見を取り入れている。		
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用等で、出来るだけ生活歴を詳しく聞き出すようにしており、それを可能な限り反映出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、スタッフからの報告、個人のケース記録等を参考に毎日の入居者の生活状況を確認、把握し毎日の引き継ぎで状態の変化があればスタッフ間で情報の共有化を図り日頃の個別ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らして頂く為の課題とケアについて本人、家族、スタッフと話し合いケアプラン変更時に本人、家族の要望を再確認しモニタリングに活用、担当スタッフからの情報をサービス担当者会議で収集し新たなケアプランの作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、記録にて情報の共有しており、早番、日勤が記録を書く際は入居者個人のケアプランに沿った内容を記載させている。又、夜勤の記録についてはケース記録を夜間帆国書とし記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月スタッフ会議を行い内部研修にてケアについて再確認、技術指導を実施、外部研修にも可能な限り参加し指導を受けられるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の子供達と合で開催している行事や外出行事等に参加して頂きで地域の方とふれあえるよう考慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望している医療機関、又、看護師による週1回のラウンドの実施、医師の往診と通院先への同行で適切な医療支援が行えるよう支援している。尚、受診については家族とも相談しつつ、本人の状態次第で判断している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に通院を図っている医療機関から看護師を派遣して頂き入居者のバイタルや体調の観察と確認をし身体状況の把握をしている。又、24時間電話での入居者の体調の変化に対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者様は二か月の間部屋を空けてお待ちしている。その館は定期的な医療との連携により入居者様の状態の把握に努め早期退院後の受け入れ態勢をとれるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重篤、終末期に本人と家族の意向に出来る限り添えるよう医療機関と連携を図り緊急時の対応や指示等を検討、準備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置、全てのスタッフが対応できるように周知させている。地域消防署が主催している救急救命の講習に管理者、スタッフが出来る限り参加し訓練に励んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練の実施をしている。防災訓練は行ってはいないが地域消防署から講師の方を迎え、防災についてスタッフが学べる機会を設けている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない様 常日頃から留意しており、内部研修等でも話し合うようにしている。又、個人が特定できるものについては必ずシュレッターで処理する様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で本人の希望や自己決定を尊重するようにしている。今何をしたいか相談する場面を作る機会を設ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	今までの生活リズムを尊重し、自分らしい暮らし方ができるよう心掛けている。天気の良い日に散歩や外出の希望があれば可能な限り外へ出れる様支援もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる方には自分で好きな格好をして頂いている。又選べない方は家族から好みを聞き訪問者にも恥ずかしくない服装で過せるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握し食べられない食材には代替品を用意している。又歯科医、口腔ケア専門士の協力を得て出来るだけ普通食を食べられる様に歯の治療や嚥下訓練をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取状況を表にして把握して必要量を確保している。又体重測定や健康診断等を参考にして主治医と相談しながら適性体重維持の為に食事量を制限している方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケア状態が把握出来る表を作成、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っています。又歯科医師、口腔ケア専門士が毎週来園して歯科治療、口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは最終手段と考え、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決定する様にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事材料の工夫で自然排便を心がけています。又各個人別の運動表により身体を動かす機会をもてる様にしています。便秘症の方は主治医と相談しその方にあつた下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴日が決まっていますが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっています。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。就寝時間も本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更等、受診結果はその都度、全職員に申し送りやケース記録の活用により周知出来る体制を組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や習慣を把握し、その方に合った役割をして頂いて、終わったら必ず感謝の気持ちを伝え言葉にしています。職員と共に楽しめる様に機会を設けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期には毎日の様に散歩の機会を設けているが本人希望で遠方の外出は担当職員と外出出来る様に計画を立てから外出している。又自宅へ帰りたい時は家族の許可を得てから送迎をする事も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小額の金銭を持ち歩き管理している方が数名いますが、買い物時などで自分で支払い出来る様見守りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封して頂きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームには季節に合ったディスプレイを飾り、心地よい音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは光が差し込み明るく開放感いっぱいの中で穏やかに過ごされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディールームにはソファ、食堂には食卓テーブルが有り、夏期には中庭に椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんで頂ける様配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になる様に心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が利用者様の身体状況、生活歴を把握し、混乱しない様に気を配り、安心して頂ける様な声掛けをしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム大空

作成日: 平成 29 年 7 月 7 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	27	ケース記録の書き方において毎日の様子を観察し記録しているが実際にはスタッフ一人一人のケアプランに対する理解力がほとんどなくケアプランの内容に沿った記録が出来ていない。	スタッフ一人一人がケアプランのサービス内容、介護計画の内容を十分理解しケアプランの内容に沿った記録が出来るようになる。	スタッフ一人一人が記録に太する意識レベルを十分に高めサービス内容を理解すると共に確実な記録が出来るようケアマネ・管理者等で助言をしていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。